

予 算 要 求 資 料

令和5年度当初予算

支出科目 款：農林水産業費 項：林業費 目：林業振興費

事業名 出前による森の体験実施費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

林文化アカデミー 総務課 管理調整係 電話番号：0575-35-2525(内203)

E-mail：c21907@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 4,533 千円 (前年度予算額：4,879 千円)

<財源内訳>

| 区 分 | 事業費 | 財 源 内 訳 | | | | | | | |
|-----|-------|------------|------------|------------|------------|-----|-------|-----|------------|
| | | 国 庫 支出金 | 分担金 負担金 | 使用料 手数料 | 財 産 収 入 | 寄附金 | その他 | 県 債 | 一 般 財 源 |
| 前年度 | 4,879 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4,879 | 0 | 0 |
| 要求額 | 4,533 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4,533 | 0 | 0 |
| 決定額 | | | | | | | | | |

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

・100年先の森林づくりを見据え、森林に対して責任ある行動ができる人づくりを目指し、幼児から大人まで幅広い世代が自然を理解し活用することを浸透させるための実践教育を県内に普及させる必要がある。

・そのため、県内各地に出前プログラムを届けるための車両を整備するとともに、出前用のプログラム、及び資材を開発し、全県に広がる森林空間での教育の推進を図る。

・出前による森の体験実施の際、参加者から当センターと同様な活動が可能な場所の問い合わせが多い。しかし、子どもの遊びの場や教育の場として設置された森林は県内では当センター以外存在しない。このため、県内各地に当センターと同様の活動が可能な場所の設置を進め、森での遊びの日常化を図る。

(2) 事業内容

すべての人と森をつなぎ、森と暮らす楽しさと森林文化の豊かさを次世代に伝えていくために、県内の保育園・幼稚園、小中学校、高等学校、特別支援学校などを対象として、出前用のプログラム及び資材を開発し、各地での出前プログラムを実施する。

○プログラム開発及び出前プログラムの実施 3,432千円

子どもが身近に遊べる森を県内各地に整備するため、希望市町村と意見交換を実施し、設置に向けた準備（箇所選定、活動団体育成・指導、森林整備方法の研修会開催等）を進める。

○子どもが身近に遊べる森づくりの実施 1,101千円

(3) 県負担・補助率の考え方

森林文化アカデミーの運営にかかる附帯教育事業であるため、県において全額負担することが妥当

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

| 事業内容 | 金額 | 事業内容の詳細 |
|------|-------|---|
| 需用費 | 710 | 消耗品費 560、燃料費150 |
| 委託料 | 3,672 | 出前プログラム実施委託2,803、 遊びの森づくり指導者養成用動画制作委託869 |
| 使用料 | 151 | 高速道路利用 151 |
| 合計 | 4,533 | |

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

第四期岐阜県森林づくり基本計画（令和4～8年度）

第7章 施策展開の全体像

3 人づくり及び仕組みづくりの推進 (1)木育・森林環境教育の推進

(2) 国・他県の状況

県として、1日から複数年まで様々なスタイルで学ぶことができる森林総合教育センターは全国初。

(3) 後年度の財政負担

森林・林業分野の教育・研修を行う中核機関として県民に認知されてきており、その役割は林業界の人材育成を通じた健全な森林の造成、県民の生活環境の維持増進に及ぶなど、引き続き県の関与が強く求められる分野である。

このため、今後も県費による事業を実施する。

(4) 事業主体及びその妥当性

事業主体：県

森林文化アカデミーの運営にかかる附帯教育事業であるため、県が事業主体であることが妥当。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

幼児から大人まで幅広い世代が自然を理解し、活用することを浸透させるための実践教育・研究施設を設立し、100年先の森づくりを見据え森林に対して責任ある行動ができる人づくり及び森林教育のリーダー的人材の育成・輩出につなげる。

（目標の達成度を示す指標と実績）

| 指標名 | 事業開始前 (R) | R3年度 実績 | R4年度 目標 | R5年度 目標 | 終期目標 (R8) | 達成率 |
|----------|--------------|------------|------------|------------|--------------|-----|
| | | | | | | |
| ①プログラム実施 | 0 | 6 | 15 | 15 | 75 | 8% |

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

| | |
|-------|--|
| 令和2年度 | 未実施 |
| | 指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ % |
| 令和3年度 | ・中濃、東濃圏域で出前プログラムを6回実施し、子ども達に自然を理解させるための実践教育を普及させることができた。 |
| | 指標① 目標：15回 実績：6回 達成率：40% |
| 令和4年度 | 令和6年度当初予算にて追加 |
| | 指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ % |

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

| | |
|--|--|
| <p>・ 事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない</p> | |
| (評価) | <p>将来の森林技術者、県産材の消費者を生み出すためには、子どもから大人まで、森と暮らす楽しさや森林文化を体験する機会が必要である。そのため、森林教育プログラムの開発、実施や森林教育指導者の育成が必要である。その拠点として、専門的知識を有するアカデミー内に設立する森林総合教育センターが、森林教育のリーダー的人材を育成することは妥当である。</p> |
| <p>・ 事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない</p> | |
| (評価) | <p>令和4年度は、県内全圏域23箇所で開催する計画であり、実績は確実に上がっている。</p> |
| <p>・ 事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている</p> | |
| (評価) | <p>令和4年度23箇所のうち、岐阜、中濃圏域の15箇所は直営で実施し、それ以外の圏域の8箇所は委託する等効率化を進めている。</p> |

(今後の課題)

| |
|---|
| <p>・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 出前プログラム：今後は本格的な指導者の育成により、活動の自立が必要。 遊びの森づくり：県内各地に当センターと同様の活動が可能な場所の設置を進めるに当たり、指導者育成、場所の選定・整備等時間を要する。</p> |
|---|

(次年度の方向性)

| |
|--|
| <p>・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 出前プログラム：5か年間実施して、県内への普及と実施できる指導者の育成を行う。 遊びの森づくり：次年度は構想策定。(翌々年度以降、指導者育成、運営団体誘致・設立、活動場所整備等を進める。)</p> |
|--|

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

| | |
|------------------------------------|--|
| <p>組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課</p> | <p>「ぎふ木育」全県展開構想サテライト整備方針 【森林活用推進課】</p> |
| <p>組み合わせる理由 や期待する効果 など</p> | <p>方針に則りサテライトを整備することにより、ぎふ木育を広く県民に周知できる。</p> |